# 長崎市外海の石積集落景観



所在地：長崎県長崎市　　選定年月日：平成24年9月19日、平成30年2月13日追加
面　積：765.7ha　　選 定 基 準：二(一(一)(八))

## （1）概要

長崎市外海の石積集落景観は、西彼杵半島中部の出津川及び矢戸川等の小河川流域で営まれる、近世から続く畑作を中心とした集落景観であり、主として結晶片岩によって形成された石積みを特徴とします。流域の河岸段丘面及び山間部の斜面地では、17世紀初頭の甘藷栽培の拡大に伴って斜面地の開墾が進み、近世後期にかけて山頂まで畑地が切り拓かれました。幕末に作成された絵図には、住居・畑地・墓地が一つの単位として点在する集落の様子が描かれており、こうした集落構造は現在も継承されます。

出津・牧野地区では、斜面地を開墾した際に出土した結晶片岩を用いて、土留めの石垣、防波・防風の石築地、居住地の石塀、住居・蔵の石壁など多種多様の石積み構造物が築かれてきました。結晶片岩の石に赤土及び藁すさを練り込んで築いた伝統的な石壁であるネリベイのほか、明治期にはパリ外国宣教会のマルク・マリー・ド・ロ神父によって、藁すさに代わり赤土に石灰を混ぜる練積みのド・ロ壁が導入され、現在もこうした石積み構造物が数多く築かれています。赤首・大野地区においても同様のネリベイが見られます。

このように、長崎市外海の石積集落景観は、結晶片岩を主とする地質が特徴の地において、数多くの石積み構造物を築きつつ畑作を営んできた、この地域に特有の土地利用形態を示す文化的景観です。

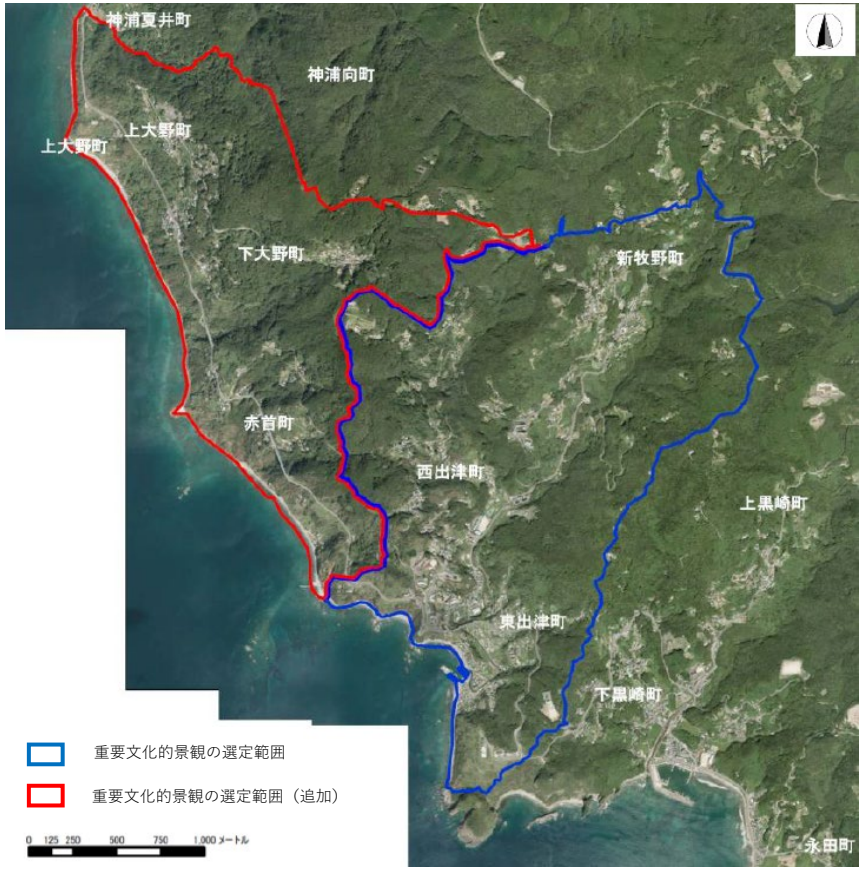
斜面地に形成される集落

ネリベイ建物

結晶片岩を用いた墓石

玄武岩が使用されている大野教会堂のド・ロ壁

## （2）選定範囲




- 重要な構成要素：79件
- 国指定重要文化財：旧出津救助院（平成15年指定）、大野教会堂（平成20年指定）、出津教会堂（平成23年指定）

## （3） 選定による効果

重要文化的景観の選定範囲は、世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産及び緩衝地帯を含んでおり、文化財保護法による法的保護が図られています。

世界文化遺産への登録や重要文化的景観への選定につながる地域の歴史や文化、独特の石積景観に魅力を感じて移住してくる方も増えています。

また、重要文化的景観の補助制度を活用して、選定地域への滞在や体験を通じて魅力に触れてもらうため、地域一帯をフィールドミュージアムにする構想が民間主導で進められています。

**大平開墾地でのお茶摘み体験の様子**

**大平作業場跡の整備状況**
**（令和5年度時点）**

## （4）保存活用計画などの基礎情報

- 長崎市外海の石積集落景観保存計画・調査報告書（平成25年3月、長崎市）
- 長崎市外海の石積集落景観保存計画・調査報告書（赤首・大野地区）（平成30年3月、長崎市）
- 長崎市外海の石積集落景観整備活用計画（平成26年3月）
- ホームページ
  https://www.city.nagasaki.lg.jp/shimin/190001/192001/p026965.html

## （５）活用事例

### 事例42-06 ① 所有者・住民・行政の協働による世界文化遺産・文化的景観保護のための獣害対策

**●行政と住民等の協働による取り組み**

重要文化的景観の選定範囲内では、イノシシによる掘り返し被害が多発しており、重要な構成要素となっている石積みが崩落するなどの被害が発生しています。

重要文化的景観の重要な構成要素であり、世界文化遺産の顕著な普遍的価値に貢献する要素である「大野教会堂」では、イノシシ被害を抑制するため、教会関係者、地元自治会、県及び市職員が協力し、専門家の指導を受けながら、イノシシが嫌がる匂いを発する忌避剤を設置するなどして対策を講じました。

地域の関係者の協働により対策を講じることで、地域全体で重要文化的景観及び重要な構成要素の重要性を再認識するとともに、保護意識が醸成されるといった効果が得られています。

**地元自治会長の声**
地域で一体となって獣害対策を行うことで、地域の大切な文化財をみんなで守っていこうという意識が広がればと思っています。

重要な構成要素「大野教会堂と境内石垣」

大野教会堂におけるイノシシ被害状況

大野教会堂におけるイノシシ対策状況

イノシシ用忌避剤

## （5）活用事例

### 事例42-06 ② ド・ロ神父が残した遺跡を核とした、体験型フィールドミュージアムの整備

文化庁補助金

#### ●住民や団体等による取り組み

長崎市外海の石積集落景観には、外国人宣教師ド・ロ神父がもたらした技術が見られる重要な構成要素が多数存在しています。

それらを歩いて巡るとともに、神父の精神を受け継ぐシスターたちの暮らしを体験できるフィールドミュージアムを創るため、修道会を母体として建築士など、様々な専門家によるデザインチームがサポートする体制により、一般社団法人ISHIZUE（いしずえ）が設立されました。文化庁の補助金などを活用するとともに、新たにプロジェクト推進のための基金を設け、今後も重要な構成要素などの整備活用を進める計画です。

ミュージアムの核となる「大平（おおだいら）作業場跡」では、保存整備したド・ロ壁の見学や、隣接するド・ロ神父が開墾した畑でとれた茶葉の製茶体験などができます。また、課題となっていた地域への滞在ができるよう山小屋やキャンプサイトも整備されています。本プロジェクトを通じて、地域の活性化が図られることが期待されます。

**団体等情報：**一般社団法人 ISHIZUE
https://fr-doro.jp/

体験型活用施設として整備が完了した
「大平作業場跡」

休憩所兼交流施設として整備が完了した
「橋口家住宅のネリベイ建物」

**一般社団法人ISHIZUEの声**
本プロジェクトによって、ド・ロ神父の精神を広く伝えるだけでなく、多くの方が外海を訪れて、地域の活性化につながればと思っております。